

パターン	対応ルール	対象薬剤例
①ATCcodeが付与されていない場合	ATCLレベル4まで薬効分類に従い付与 レベル5以降は順番にXA、XBと付番する (現在も流通している医薬品はATCの新規申請を行うが、販売終了品目については本ルールで 設定を行う)	J01CAXA シクラシリン (O) J01DDXX セフチゾキシム (R) J05AEXB バニプレビル (O) J05AR30 ドラビリン/イストラトラビル (O)
②DDDが付与されていない場合	JDDDとし、原則として、日本の添付文書最大用量とする 体重あたりの投与量が設定されている場合は70 kgで計算する (現在も流通している医薬品はWHOにDDDの新規申請を行うが、販売終了品目については本 ルールで設定を行う)	A01AB18 クロトリマゾール (SL) JDDD=0.05 g G01AF17 オキシコナゾール (V) JDDD=0.1 g J01CAXA シクラシリン (O) JDDD=2 g J01FA03 ミデカマイシン (O) JDDD=1.2 g J01MA25 ラスコフロキサシン (P) JDDD=1.5 g J05AEXB バニプレビル (O) JDDD=0.6 g J05AP58 タクラタスビル/アスナプレビル/ペクアラプリル (O) JDDD=4 UD P01BF01 アルテメテル/ルメファントリン (O) 合剤全体としての力価に対しJDDD=1.12 gと設定 【WHOのルールに基づき計算 短期投与する薬剤に対するDDD=合計投与量/投与日数=(0.14 g/錠×4錠×6回=3.36 g)/3日間=1.12 g】
③抗菌薬が合剤且つWHOで定めるDDDの単位が“UD”を使用していた場合	“UD”でDDDを記載	A02BD～ ヘリコバクターピロリ除菌薬 WHOの組み合わせ薬剤のDDD設定ルールに従って1日の錠数をDDDとしてUD設定 (クラリスロマイシン 400 mg製剤:10 UD、800 mg製剤:12 UD) J01CR50 アンピシリン (125 mg) /クロキサシリン (125 mg) (O) WHO : DDD=8 UD J01CR50 アンピシリン/クロキサシリン (P) WHO : DDD=2 UD J01EE01 スルファメトキサゾール/トリメトプリム (O・P) WHO : DDD=4 UD J05AP57 グレカプレビル/ビブレントスビル (O) WHO : DDD=3 UD P01BB51 プログアニル/アトバコン (O) WHO : DDD=4 UD
④抗ウイルス薬が合剤且つWHOで定めるDDDの単位が“UD”を使用していた場合	“UD”でDDDを記載	J05AP51 ソホスブビル/レシバスビル (O) WHO : DDD=1 UD J05AP53 オムビタスビル/パリタプレビル/リトナビル (O) WHO : DDD=2 UD J05AR01 シドフジン/ラミブジン (O) WHO : DDD=2 UD J05AR09 エムトリシタビン/テノホビル シゾプロキシル/エルビテグラビル/コピシスタット (O) WHO : DDD=1 UD J05AR30 ドラビリン/イストラトラビル (O) DDD=1 UD (申請中)
⑤規格が〇〇万単位の場合	DDDをMUとして処理 (1 MU=100万単位)	A07AA02 ナイスタチン (O) WHO : DDD=1.5 MU (O) →JDDD=1.5 MUと設定 (力価: 50万単位製剤=0.5 MU) A07AA05 ホリミキシチンB (O) WHO : DDD=3 MU (O) →JDDD=3 MUと設定 (力価: 100万単位製剤=1 MU、50万単位製剤=0.5 MU) A07AA10 コリスチン (O) WHO : DDD=9 MU (O) →JDDD=9 MUと設定 J01CE01 ベンシルベニシリン (P) WHO : DDD=3.6 g (P) →1MU=0.6 gのため、JDDD=6 MUと設定 J01CE08 ベンシルベニシリンベンザチン (P) WHO : DDD=3.6 g→JDDD=2.4 MUと設定 J01CE08 ベンシルベニシリンベンザチン (O) WHO : DDDなし →JDDD=1.6 MUと設定 J01FA02 スピラマイシン (O) WHO : DDD=3 g (O) →1 g=3 MUのため、JDDD=9 MUと設定 J01XB01 コリスチン (P) WHO : DDD=9 MU (P) →JDDD=9 MUと設定 (コリスチンメタンスルホン 1 mg=3万国際単位)
⑥酵素阻害薬の入った合剤の場合	WHOでは抗菌作用成分のDDDに従うとされているが、 流通データ・レセプトデータでは、本数データを扱うため、本マスタ上では配合比を加え JDDDと設定して対処	J01CR01 アンピシリン/スルバクタム (P) アンピシリン+酵素阻害薬のWHO : DDD=6 g (アンピシリンとして) →アンピシリン/スルバクタムの配合比が1 : 2のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=9 gと設定 J01CR02 アモキシシリン/クラブラン酸 (O) アモキシシリン+酵素阻害薬のWHO : DDD=1.5 g (アモキシシリンとして) →クラブモックス® (1.01 g製剤中アモキシシリン 0.6 g/クラブラン酸 0.0429 g含有) : 合剤全体としての力価に対し JDDD=1.60725 gと設定 →オグメンチン® (アモキシシリン/クラブラン酸の配合比 2:1) : 合剤全体としての力価に対し JDDD=2.25 gと設定 J01CR05 ビベラシリン/タゾバクタム (P) ビベラシリン+酵素阻害薬のWHO : DDD=14 g (ビベラシリンとして) →ビベラシリン/タゾバクタムの配合比が1 : 8のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=15.75 gと設定 J01DD52 セフタジジム/アピバクタム (P) セフタジジム+酵素阻害薬のWHO:DDD=6 g (セフタジジムとして) →セフタジジム/アピバクタムの配合比が4:1のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=7.5 gと設定 J01DD62 セフォオペラゾン/スルバクタム (P) セフォオペラゾン+酵素阻害薬のWHO : DDD=4 g (セフォオペラゾンとして) →セフォオペラゾン/スルバクタムの配合比が1:1のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=8 gと設定 J01DH51 イミベネム/シラスタチン (P) イミベネムのWHO : DDD=2 gとして計算 (販売されている製剤の規格にシラスタチンを含まないため補正不要) J01DH56 イミベネム/シラスタチン/レレバクタム (P) イミベネム/シラスタチン/レレバクタムのWHO : DDD=2 g (イミベネムとして) →イミベネム/シラスタチン/レレバクタムの配合比が2:2:1のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=5 gと設定 J01DI54 セフトロザン/タゾバクタム (P) セフトロザン+酵素阻害薬のWHO:DDD=3 g (セフトロザンとして) →セフトロザン/タゾバクタムの配合比が2:1のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=4.5 gと設定
⑦WHOCCでDDDが設定されているが、JDDDを用いている薬剤 (⑥に記載の薬剤を除く)	集計上、および便宜上の理由のため	J05AF07 テノホビル シゾプロキシル (O) テノホビル シゾプロキシルのWHO : DDD=0.245 g →フルマ酸塩製剤としてJDDD=0.3 gと設定 J05AR10 ロビナビル/リトナビル (O) ロビナビルのWHO : DDD=0.8 g →ロビナビル/リトナビルの配合比が4 : 1のため、JDDD=1 gと設定
⑧ブースターを含んだ複数規格が存在するバック製剤	バック製剤のため請求単位はシートになるが、配合比率の異なる複数規格が存在するため、 集計上は力価をWHOの設定通りブースターを含まないg単位で設定し、DDDをWHOに準拠 する形で設定	J05AE30 ニルマトレビル/リトナビル (O) ニルマトレビルのWHO : DDD=0.6 g →主成分のニルマトレビルのDDDをバック製剤のDDDとしてJDDD=0.6 gと設定

※“JDDD”はJapan DDDとしてAMR臨床リファレンスセンターで設定しました。WHO Collaborating Centre for Drug Statistics MethodologyのDDDではありません。

※薬剤名の後ろにあるカッコ内は投与経路となります。(O) : oral、経口 (P) : Parenteral、非経口 (R) : rectal、直腸投与 (SL) : sublingual/buccal/oromucosal、舌下投与/頬粘膜投与/口腔粘膜投与 (V) : vaginal、膣投与

※MU: 百万単位、UD: unit dose